

對する考へはドナナとのであるか、それと不せば次の如くである。而してそれが國家主義であれば國家主義と名乗つては少しも差支へはしないのである。

一、日本、日本の労働組合は、労働組合として發達するより、無政府主義、共産主義、サンジカリズム等、思想的影響を先づに受けた。それは日本が世界の後進國として止むを得ぬ事であるが、その模倣と拜歐思想が澎湃として押し寄せ、日本の実状に照應する労働組合運動が、その思想的波濤に採られ、その結果が地味な組合運動よりと、単やかま思想演習に終始し、そのために組合運動の一大進出のよい機会を逸し、組織を破壊し更に分裂抗争して労働組合運動の發達を阻害したことは、少しく過去の無産者運動を注意するもの、等しく周知する處の事実である。

總聯合は、かゝる思想演習を放棄し、一、路労働組合運動に専念せんとするところである。従つてその結果として、従來労働組合と言へば、その思想的影響の結果として権力否認、國家否認などいふ事をなつてゐたのであるが、總聯合は左様なことは主張しない。唯だ只管に労働組合運動に銳意せんとするのである。その結果は、我が

國の國體國情に即して行かねばならぬ事は當然の道として示されてゐる。總聯合はそれとせむに受け入れ、我が國の國情に即して労働組合運動に銳意努力してゐるのである。それが他の、赤だとか黒だとか桃色だとかなつてゐる労働組合と比較して異色あるところに總聯合が國家主義的傾向ある労働組合と認識するに至つたもの、やうである。

従つて國家主義的となつては好戦的や排外的や愛國團體とはその本質を全く異にしてゐるのである。素より日本國民といふ認識を明確に把持してゐるのであるから日本で發する念に至つては何人にと譲りぬと信じてゐるものである。かゝる事は平凡な事であり當然な事であるが、労働組合の陣營内では異色のある事と考へられる。即ち日本家に非ずば人に非ずは式にヨマルキシズムに非ずば労働運動に非ずはと考へてゐる時に、マルクスの所謂ヨ労働者に祖國なしとの護符を有難がらず現実の認識に立脚して國家の存在を確認し、労働運動の基調と亦かゝる認識の上に立つて主張するところに總聯合の平凡の非凡がある。